福岡県西方沖地震で被災した玄界島のしまづくりに関する調査

長崎大学工学部　フェロー　高橋和雄　　長崎大学工学部　学生会員○小川拓也
長崎大学工学部　正 会 員　中村聖三

1.　はじめに

平成 17 年 3 月 20 日に発生した福岡県西方沖地震により，震源に最も近かった玄界島では斜面地の住宅と宅地が甚大な被害を受けた．そこで，島民の意向を反映した復興計画をもとに，福岡市を事業主体とする小規模住宅地区改良を活用した事業が導入された. 平成 20 年 3 月の市営住宅の完成を最後に避難生活は解消され，島での生活が再開された [1)]．新たな生活ではコミュニティの減少，少子高齢化，生活環境の変化など多くの問題を抱えていることが，平成 20 年 12 月に行ったアンケート調査結果 [2)] より明らかになり，島の再生のために島民を主体とする玄界島しまづくり推進協議会が平成21年1月に設置された. そこで, 本研究では, 推進協議会設置から平成 22 年 1 月までのしまづくり活動の実施を調査するとともに, 資料収集を行い, 今後のしまづくりに必要なことを明らかにする.

2.　平成 20 年 12 月に行ったしまづくりに関するアンケート調査

平成 20 年 12 月に行ったアンケート調査 [2)] で「玄界島しまづくり推進協議会で議論して欲しい項目は何ですか」と聞いたところ,「観光客の受け入れ施設」が最も多くの選択を得て，観光振興に関して必要性を感じていることがわかった．玄界島には観光客の受入れ施設として，震災前に旅館や物販所などがあったが，震災後になくなった影響がある．他にも「島内での仕事の場の確保」と「少子高齢化対策」の項目も高い割合を示し，島離れや少子高齢化など将来的な人口減に強い危機感を抱いていた.

3.　玄界島しまづくり推進協議会のしまづくり活動

平成 21 年 1 月 7 日初会合で推進協議会の役員と組織名が決定した. 役員は計 16 人で, **図 1** のように 7 団体から各 2 人，次世代を担う代表者を選出した（女性部から 4 人選出，最年長者は 62 歳，最年少者は 25 歳）.

(1)　ワークショップの開催　震災から 4 年目の平成 21 年3月20日に推進協議会が主体となりワークショップを開催した．目的は，島の産業振興を図るとともに，島民の憩いの場となるしまづくりのきっかけづくりである．島外の建築・まちづくりの専門家，ボランティア，大学生を招いて,「玄界島を回って何を感じたか」,「玄界島の魅力は何か」,「振興方策の提案」をテーマに掲げ行われた [3)]．このときに出された意見を 3 項目に分けて**表 1** にまとめた.

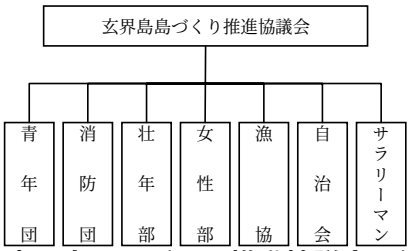

図 1　玄界島しまづくり推進協議会の組織図

表 1　ワークショップの内容

項　　目	玄界島の魅力	振興方策の提案
島の活性化	・子供が元気 ・温かい人が多い ・人間関係の濃さ	・スポーツイベント開催 ・特産品づくり ・食堂づくり
復興した島のアピール	・震災で関心が高まっている ・近代化が進んでいる	・記念館や博物館づくり ・玄界島カレンダー作成 ・避難生活でお世話になった地域との交流
自然とのふれあい	・豊かな自然が残っている ・車が少なく静かである ・素朴でおいしい海の幸	・魚料理・釣体験 ・ハイキング ・海辺でバーベキュー

(2)　現在までの活動　推進協議会が発足から現在までに行った主なしまづくり活動を 3 項目に分けて**表 2** に示した．この活動の中で，特に直売所の開設を重点活動とした．直売所では特産品（わかめ，さざえ，蜂蜜）の販売，クルージング（1 人 500 円），レンタルサイクル（5 台，1 日 100 円），鯨飯弁当の販売を行った．直売所を運営するために島民に販売希望者を募集したが，申し出は少なかった．そのため，推進協議会の役員が交代で運営者としてボランティアで活動したが，通年で続けることは難しく，7 月から 9 月までの期間限定といった形になった.

キーワード：福岡県西方沖地震，玄界島，しまづくり，振興計画，地域交流
連絡先：〒852-8521　長崎市文教町 1-14　長崎大学工学部 (Tel)095-819-2610　(Fax)095-819-2627

また，来客者数が見込みよりも少なかったため，収益が上がらず,PR 活動に問題を残した. **表 1** と **表 2** を比較すると，ワークショップで提案された多くの振興方策が採用されていることがわかる．参加者の多くがまちづくりなどに携わっており，阪神・淡路大震災の計画づくりの事例など専門家の意見を交えながら意見交換を行えたため，振興方策に説得力があった．推進協議会の役員は島民で編成されており, しまづくり活動を行うことは初めてである. そのため，島外からの提案は非常に参考になっていると思われる．

表 2　玄界島しまづくり推進協議会活動内容

項　　目	実現させた活動	計画中の活動
島の活性化	・直売所の開設(7～9 月) ・特産品の開発 ・ワークショップの開催	・スポーツイベントの開催 ・介護施設の建設
復興した島のアピール	・防災どんたくに参加 ・防災学習の受け入れ ・全国街づくり会議に参加 ・被災者交流会へ参加	・動く震災博物館 ・陶板の設置(防災学習にする)
自然とのふれあい	・散策コースの整備 ・周回道路の整備 ・クルージング ・レンタルサイクル	

表 3　災害資料リスト

分　　類	内　　容
災害遺構	・小鷹神社の被災鳥居 ・若宮神社の被災鳥居 ・旧中学校階段の壁・石垣のクラック ・福岡市玄界島復興事務所の看板 ・一部損壊した柱島，大机島
写　真 映　像 資　料	・福岡市が保管している写真 ・長崎大学が保管している写真 ・玄界島震災復興記録誌などの報告書 ・新聞などの報道写真（新聞社） ・テレビの特別番組等の映像

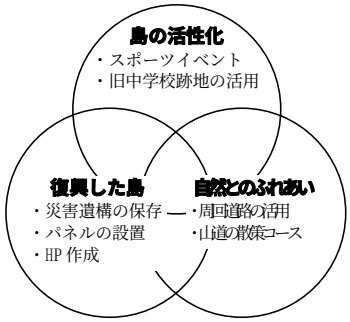

図 2　しまづくりのコンセプト

4.　福岡県西方沖地震による災害遺構調査

福岡県西方沖地震の災害遺構の保存は積極的に行われておらず，国営海の中道海浜公園内の液状化によって傾いた小屋と地割れの保存が見受けられる程度である．平成 21 年 8 月から玄界島，福岡市役所，新聞社を中心に災害資料の収集を行った結果，**表 3** のような資料がリストアップされた. 玄界島での災害遺構調査では, 若宮神社の被災鳥居, 旧中学校階段の壁・石垣のクラックなどが確認できた．今後，島民の自宅に残っている災害前の写真，福岡市が作成した斜面住宅立体模型，テレビ局に残っている震災直後の映像などの掘り起こし・保存を行う必要がある．

5.　全国被災者交流会への参加

全国被災地交流会は関西学院大学の主催で, 阪神･淡路大震災，三宅島噴火災害，鳥取県西部地震，新潟県中越大震災，福岡県西方沖地震，新潟県中越沖地震，能登半島地震，岩手・宮城内陸地震の被災者と向き合ってきた各代表者に加えて，学生ボランティア団体の「足湯隊」が参加して行われた．それぞれの被災地で今何が課題になっているのか,「災害から○年経って，こんな動きが出てきた」などといった話を持ち合い,「災害バネ」という言葉の中身を再考するとともに，災害を乗り越えてきた経験を共有するといった目的で行われた．玄界島からも参加して意見交換会がなされた．

6.　今後のしまづくり

これまでの活動を基に玄界島のしまづくりのコンセプトをまとめると，**図 2** のようになる．このうち，島の活性化は主として島外からの観光客の受け入れであるが，宿泊施設と飲食店については未だ目途が立っていない．復旧した漁村センターを当面活用するとともに旧中学校跡地の活用に取り組む必要がある．復興した姿を見てもらうには災害遺構の保存と掘り起しが不十分である．自然とのふれあいは，豊かな海と山を楽しむことができる島であることを PR する活動が必要である．また，現在は推進協議会の役員が企画から運営にあたっているが，負担が大きく長続きするか不安が残るため島民の参加を増やすことが必要である．

7.　終わりに

玄界島のしまづくりは島民を主体として着実に実施されていることは評価される．しまづくりを島外の人に知ってもらうための情報発信（HP の作成），しまづくりの担い手の養成などを進めることが必要である．

参考文献

1)福岡市：玄界島震災復興記録誌，pp.37-80，2008.3

2)山下龍志，高橋和雄，中村聖三：福岡県西方沖地震で被災した玄界島住民の帰島後の復興評価としまづくりに関する調査，土木学会第 64 回年次学術講演会概要集第 4 部門，pp.219-220，2009.9

3)玄界島しまづくり推進協議会：まちづくり企画支援事業実施報告書，pp.5-15，2009.3